

総合初級教科書から見えるコミュニケーション能力観 —「生活のための日本語」探求のために—

福永由佳・武田聡子・黒瀬桂子・金田智子
(国立国語研究所・日本語教育基盤情報センター)
gakushu-koumoku@kokken.go.jp



本研究の目的

教科書における文型（“初級文型”）の役割を観点に、日本語教育でコミュニケーションがどのように捉えられているのかを明らかにする。

→ 定住型外国人が習得すべき言葉、コミュニケーション能力（「生活のための日本語」）の探求

分析の対象

日本国内で広く使用されている総合初級教科書（副教材，指導用参考書を含む）10種類／初級文型11項目

分析の結果（本発表では，分析結果の一部を取り上げる）

- 初級文型 6項目・・・「～ことができる」，可能形，受身，使役，使役やりもらい，使役受身
- 総合初級教科書（副教材，指導用参考書を含む）・・・6種類（38冊）

■文型の出現

	ことができる	可能形	受身	使役	使役やりもらい	使役受身
教科書A	●	●	●	●	●	-
教科書B	●	●	●●	●	●	●
教科書C	●	●	●	●	●	-
教科書D	-	●	●	●	●	●
教科書E	●	●	●●	●	-	-
教科書F	-	-	●	-	●	-

●印：

該当文型が学習項目として，教科書の目次や巻末のシラバスに掲載されている。

●が2個ついている場合は，異なる課で2回取り上げられていることを示す。

■練習の種別

	ことができる	可能形	受身	使役	使役やりもらい	使役受身
教科書A	機・意	機・意	機・意	機・意	機・意	-
教科書B	機・意・コ	機・意・コ	機・意/機・意	機・意	機	機・意
教科書C	機	機・意・コ	機・意	機	機	-
教科書D	-	機・意・コ	機・意・コ	機・意	機・意	機・意・コ
教科書E	機・意	機・意	機・意/機・意	機・意	-	-
教科書F	-	-	-	-	機・意・コ	-

略語の意味：

「機」 機械練習を指す

「意」 意味練習を指す

「コ」 コミュニケーション練習を指す

* 分類は，田中(1988)等を参考に，本研究グループが設定した定義による(配布資料参照)。

■考察

(1) コミュニケーション遂行に必要な要素としての文型：

使役やりもらいの表現は，行為者と被行為者が分かりにくい。というえに，授受関係が加わるため，難易度が高いと考えられている。しかし，許可を求める用法として，分析対象とした教科書のほとんどで取り上げられている。

(3) 実際のコミュニケーションを意識した練習：

＜全体＞ 機械練習と意味練習が大半を占め，現実のコミュニケーションが備える即興性や意味のあるやり取りを取り入れた練習(コミュニケーション練習)は限られている。

＜文型別＞ 人間関係や場面に配慮して使うことが求められる，許可求めの表現としての「使役やりもらい」でも，コミュニケーション練習はほとんど設定されていない。

(2) コミュニケーション遂行を意識した目標設定：

可能形はほとんどの教科書で扱われている文型である。しかし，可能形に関する学習目標は，文型の習得の観点から記述されているものやコミュニケーション遂行を意識したものなど，教科書によって記述に違いが見られる。

＜教科書B＞ 能力や状況について説明したり，尋ねたりする

＜教科書C＞ 可能形

＜教科書A, D＞ できること／できないことを述べる

＜教科書E＞ (目標の明記なし)

参考文献：

田中望(1988)『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店